

令和元（2019）年度

事業報告

平成 31(2019)年 4 月 1 日から令和 2 (2020)年 3 月 31 日

公益財団法人 日本数学検定協会

The Mathematics Certification Institute of Japan

<https://www.su-gaku.net/>

令和元（2019）年度 事業報告

目 次

総合報告

- I 数学に関する技能検定の実施、技能度の顕彰及びその証明書の発行
- II ビジネスにおける数学の検定及び研修等の実施
- III 数学に関する出版物の刊行及び情報の提供
- IV 数学の普及啓発に関する事業
- V その他この法人の目的を達成するために必要な事業

令和元（2019）年度 総合報告

【外部環境】

Society5.0の時代が到来するにあたって、政府は2019年3月に「人間中心のAI社会原則」を、また、6月には「AI戦略2019」をまとめました。その流れの中で、数理・データサイエンス教育の強化を目的として「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」が国立大学を中心に設立され、その教育プログラムが公表されるなどこれからのデータ社会に対応し得る人材の育成に注目が集まっています。その一方で2020年度から行われる予定だった「大学共通テストにおける英語の民間試験の活用」や、「国語・数学での記述式の導入」が中止になるなど、学校教育の場では混乱が生じています。このような状況に追い打ちをかけるように、2019年度末に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が発生しました。

ご承知のとおり、日本では2020年3月の時点で全国的に休校措置がとられましたが、学習塾も休業や指導方法の見直しの対応が急務になっています。こうした中で、2020年度は、教育産業への影響は計り知れなく、学びを支えてきた学習塾をはじめとした民間教育産業の倒産など危機的状況が現れてくると考えられます。

【当協会の基本方針】

当協会の目的は、「信頼性と有用性が高く、学習指針として広く認められる数学に関する検定事業を実施し、得られた知見を社会に還元することを通じて、世界中の人々の生涯にわたる数学への興味喚起と数学力の向上に貢献する」ことです。

【2019年度の各事業】

2019年度は公益財団法人として第7期めの事業年度となり、昨年度の数検創設30周年という節目から次の30年を築くための1年となりました。

実用数学技能検定（数学検定・算数検定）においては教員の働き方改革などの影響で年間志願者数の累計が昨年度より約18,000人減のべ357,622人となりました。また、ビジネス数学関連事業としてビジネス数学検定・研修・e-learningの3つのコンテンツを提供していますが、各利用者の総計はのべ5,915人となり昨年よりも700人程度減少しました。当協会が発行する書籍の出庫数については、年間で122,792冊となりました。普及啓発事業としては、数学甲子園を予定どおり開催し（2019年度で12回め）、過去最多294校703チーム2,833人が予選に参加したほか、東大寺への算額奉納企画の推進や各種イベントにも積極的に参加し、数学への興味喚起を促す取り組みができました。さらに、当協会の学習数学研究所では文部科学省から教員の免許状更新講習の開設者の指定を受け、9月に講習を行いました。

なお、検定事業の海外展開として、タイでの受検者が2,800人を超えたほか（タイの現地有識者が発足したタイ数学検定協会主催）、例年どおりフィリピンやカンボジア、ジャマイカなど現地の方を対象として検定が実施され、海外の方を対象とした受検者はのべで4,000人を超えることができました。

最後に、新型コロナウイルス感染症は全事業に甚大な影響を与えていますが、2019年12月に発足した「LINE 未来財団」のパートナーになったことで、ソーシャル・ネットワーキング・サービスのLINEを活用した休校サポートプロジェクトに立ち上げ当初から参加でき、結果として数学検定のメインターゲットとなる中・高校生やその保護者に直接情報を伝達する手段が得られたことは、今後の検定運営においても大きな動きになると予想しています。

I 数学に関する技能検定の実施、技能度の顕彰及びその証明書の発行

この事業の公益性は、すべての国民が学んでいる数学という学問で、学習指標としての検定を全国津々浦々で実施し、年齢・学歴を問わずありとあらゆる人たちが自由に参加し、学習成果を評価・表彰する生涯学習の場を提供できるという点にある。

2019年4月から2020年3月までの実用数学技能検定（数学検定・算数検定（かず・かたち検定含む））の志願者ののべ総数は、国内が357,622人、海外（日本人学校、補習校を除く）が4,089人、合計361,711人となりました。国内だけで比べると昨年度より18,408人の減少となっています。

今年度の団体受検は、のべ16,938団体が実施し、合計295,505人が志願しました。団体数、志願者数ともに昨年度より減少しており教員の働き方改革が影響していると分析しています。また個人受検も、昨年度と比べて約10,000人少ない、のべ約62,000人が志願しました。受検者全体が減少したことの大きな要因としては、大学入学共通テストで注目されていた英語に多くの関心が寄せられたことがあげられます。

ボリュームゾーンとなっている3～5級などは昨年と比べて志願者が減少していますが、1級、2級および8～10級で志願者が若干増加しています。

3～5級などの減少については教員の働き方改革や英語への関心の高まりが大きな要因ではありますが、そのほかの要因として、2020年に開催される予定だったオリンピック・パラリンピックの影響を確認するために個人受検の検定日を7月ではなく6月実施に設定したり、台風などの自然災害や全体的に検定料を若干値上げしたりしたことも影響していると考えられます。

一方で、自治体の予算を活用して数検受検に対する補助を行う自治体がありますが、2019年度は東京都北区や静岡県袋井市などが加わり、42の市区町村で公費を使った受検が行われました。今後も公費受検の取り組みを増やせるように教育委員会等との関係構築を図っていきます。

II ビジネスにおける数学の検定及び研修等の実施

この事業の公益性は、公教育では伝えきれなかった社会や企業と数学の接点を明らかにしつつ、実社会における数学的リテラシーの向上につなげ、その有用性について認知を促すことによって、効率的な情報交換を行えるような人材育成につなげるという点にある。

【2019年度 ビジネス数学関連利用者数（2018年度との比較）】

	研修（※注）	検定	e-learning	合計
2019年度	2,363人	2,903人	649人	5,915人
2018年度	2,557人	3,006人	1,088人	6,651人
増減	▲194人	▲103人	▲439人	▲736人

ビジネス数学の関連事業については上の表のとおり、全体的に昨年度を下回っています。

ご存じのとおり、国内で行われている多くの研修事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や延期となっていますが、弊会の担う研修も2020年2月や3月に実施予定であったものについてはすべて中止となってしまいました。現在、オンライン研修に切り替えて案内を開始していますが、2019年度末に研修を開催できなかったことで受講者数だけでなく、研修のチェックテストとなるビジネス数学検定の受検者数やe-learningの利用者数にも影響が出てしまいました。なお、2018年度末に販路の拡大を目的として、企業向け研修事業の事業譲渡を行いました。当協会も一緒に受講者獲得に向けて活動していることから、企業向けの研修受講者数も表中の「研修（※注）」に加えて報告しております。

今後、ビジネス数学について進めなければならないことは、ビジネスにおけるさまざまな専門領域と数学との関係性を割り出し、職種別や業界別に役立つ数学を提唱していくことです。AI・データサイエンスについては、これからの日本にとっても重要なテーマとなります。このことから今年度はとくに、AI・データサイエンス分野で必要になる数学を検定問題として創出するなど研究を行うことができました。

Ⅲ 数学に関する出版物の刊行及び情報の提供

この事業の公益性は、数学の学習者はもとより広く一般の人たちに、学習材や情報誌あるいはネットを用いて学習情報を提供し、学習経験者のさまざまな声を、新たな学習活動を起こそうとする方々に届けて生涯学習の輪を広げていこうとする点にある。

当協会が発行する実用数学技能検定の学習書シリーズについては、「要点整理」シリーズの6～11級を4月にそれぞれ新刊として発行いたしました。

【2019年度 協会発行書籍の出庫数】

シリーズ名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要点整理	3,298	1,041	1,593	3,816	1,663	2,710	2,427	2,140	2,692	2,793	2,861	4,079	31,113
過去問題集	6,874	3,078	3,720	9,008	2,475	6,775	6,352	5,282	6,797	8,082	4,676	6,315	69,434
記述式演習帳	276	126	21	279	151	134	154	122	98	227	80	357	2,025
文章題練習帳	322	229	97	704	106	209	456	173	250	390	155	200	3,291
文章題入門帳	105	-3	9	170	105	98	140	25	174	220	86	23	1,152
親子ではじめよう	927	753	450	1,805	353	1,102	964	964	2,091	1,597	916	1,364	13,286
発見	320	49	52	184	115	209	107	113	205	220	199	344	2,117
幾何学オブジェ	25	-15	14	87	79	13	26	20	22	17	8	78	374
合計	12,147	5,258	5,956	16,053	5,047	11,250	10,626	8,839	12,329	13,546	8,981	12,760	122,792
昨年度実績	9,186	8,982	12,494	14,612	7,382	13,903	11,837	8,843	13,360	11,447	13,483	10,503	136,032

受検者数の減少によって、検定関連書籍も全体的に売り上げが下がっていますが、2020年3月の売り上げは、新型コロナウイルス感染症拡大防止策である全国の学校休業によって下がるとことも予測しておりましたが、結果としては2割増の売り上げとなりました。休校サポートとしてLINE みらい財団とともに数学学習用の映像を無料で提供することにより、これまで検定問題を見たことのなかった子どもたちやその保護者に直接ご覧いただく機会となり、家庭学習をする際の目標に位置づけられたことによって売り上げ増につながった可能性があります。高校生の利用率が90%を超えるLINEを今後も活用することによって、新たな受検者の掘り起こしができるのではないかと期待しています。

当協会発行以外の書籍については、今年度、新たに3社の出版社から当協会が監修した数検関連書籍として発行されました。

出版関連以外の「情報の提供」として、2020年度にリニューアルを予定している公式ホームページの制作のほか、数検公式LINEアカウントの立ち上げに向けた準備も合わせて行いました。

IV 数学の普及啓発に関する事業

この事業の公益性は、不特定多数の人が参加できるイベントで、いくつかの共通の課題やテーマを通して、子どもと大人が一緒になって楽しみ生涯学習の実践と評価をうけながら普及啓発活動をしていく点にある。

普及啓発活動の一環として大小さまざまなイベントを開催しました。とくに大きなイベントである「数学甲子園 2019」（第 12 回全国数学選手権大会）は、予選に 294 校 703 チーム 2,833 人が参加しました。年々、参加者数も増加傾向にあり、全国大会として成長しています。そのうち本選には 36 チームが進み、栄光学園高等学校（神奈川県）の「朝食会の Toast チーム」が優勝して 2 連覇を果たし、「文部科学大臣賞」が贈られました。

また、奈良県の東大寺の大仏殿に算額を奉納する企画については、新たな算額を奉納することができ、新聞各紙で奉納式の様子が記事になり、昨年度に引き続いて「読売KODOMO新聞」でも解答募集の呼びかけを行っていただきました。

つぎに、当協会は文部科学省が推奨する土曜学習応援団として活動をしています。メニューとしては「さんすう体感プログラム」や「算数トライアスロン」といった算数や数学を楽しく学ぶことのできる学習プログラムを開発しており、全国各地の教育委員会やコミュニティ・スクールなどとのタイアップで各種イベントを行うことができました。

【2019 年度 イベント開催（共催・協力）状況】

年	区分	大会名・イベント内容	開催日	開催地	開催場所	主催者
2019年	イベント	算数トライアスロン(立体図形)	6月17日	岐阜県	本巣市立本巣小学校	本巣市立本巣小学校
	イベント	さんすう体感プログラム	8月21日	神奈川県	川崎市立田島支援学校	地域コーディネータ
	イベント	算数&数学トライアスロン	10月1日	神奈川県	横浜市立新井中学校	地域コーディネータ
	イベント	さんすう体感プログラム	10月5日	茨城県	牛久市立ひたち野牛久小学校	うしく土曜カッパ塾
	イベント	さんすう体感プログラム	10月19日	茨城県	牛久市立神谷小学校	うしく土曜カッパ塾
	イベント	さんすう体感プログラム・トライアスロン(立体図形)	11月7日	大阪府	大阪市立平林小学校	大阪市立平林小学校
	イベント	さんすう体感プログラム	11月9日	神奈川県	川崎市立上作延小学校	地域コーディネータ
	イベント	円かき大会	11月25日	神奈川県	横浜市立新鶴見小学校	地域コーディネータ、コミュニティハウス
	イベント	算数トライアスロン(立体図形)	11月30日	岐阜県	本巣市立真桑小学校	本巣市教育委員会
	イベント	さんすう体感プログラム	11月30日	岐阜県	本巣市立席田小学校	本巣市教育委員会
	イベント	算数トライアスロン	12月7日	神奈川県	横浜市立平沼小学校	地域コーディネータ
	イベント	さんすう体感プログラム	12月7日	茨城県	牛久市立向台小学校	うしく土曜カッパ塾
	イベント	さんすう体感プログラム	12月20日	愛知県	名古屋市中村小学校	トワイライトスクール
	イベント	さんすう体感プログラム・トライアスロン(立体図形)	12月21日	岐阜県	本巣市立一色小学校	本巣市教育委員会
2020年	イベント	算数トライアスロン	1月11日	千葉県	白子町教育委員会(3校)	白子町教育委員会
	イベント	さんすう体感プログラム	1月18日	東京都	目黒区立大岡山小学校	目黒区立大岡山小学校
	イベント	算数トライアスロン	1月24日	東京都	台東区立上野小学校	台東区教育委員会
	イベント	さんすう体感プログラム	2月1日	岐阜県	本巣市立弾正小学校	本巣市教育委員会
	イベント	さんすう体感プログラム	2月15日	神奈川県	川崎市立高津小学校	地域コーディネータ
	イベント	さんすう体感プログラム	2月15日	神奈川県	川崎市立土橋小学校	地域コーディネータ

その他、当協会が認定している数学の指導者資格「数学コーチャー」「数学インストラク

ター」や幼児向け指導者資格「幼児さんすうインストラクター」の取得者の協力のもと、下記のとおり大人や子どもを対象とした講習会などを開催しました。

【2019年度 講習会の開催日と受講者数】

開催日	受講者数		実施場所
8月31日	子	126人	葛飾ウィメンズパル（東京都）
10月26日	親子	52組	葛飾ウィメンズパル（東京都）
11月30日	親子	38組	葛飾ウィメンズパル（東京都）
2020年			
1月11日	子	134人	葛飾ウィメンズパル（東京都）
1月25日	大人	26人	亀有地区センター（東京都）
2月22日	大人	中止	亀有地区センター（東京都）

また、JICA によって採択されたフィリピンのカガヤンデオロ市における数学教育に関するコンテンツの普及実証事業に、当協会は外部人材として関わり、数学力の向上をサポートするコンテンツの活用効果の検証として数学の問題を提供するとともに、その結果に対する分析を担当しました。

V その他この法人の目的を達成するために必要な事業（関係諸団体との情報交換及び連携）

この事業の公益性は、知識層との交流を通して、数学の生涯学習とは何か、数学の学習とは何かなどの疑問に答えながら、生涯学習の概念を拡張していく点にある。

学会・研究会などに参加することで、算数・数学の生涯学習について関係諸団体と交流・情報交換を深め、学力向上への素材提供を行ってきました。

小中一貫教育校については、コミュニティ・スクール（地域学校協働本部を含む）とともにとくに地方で増えていく流れになっており、小中一貫教育全国サミットには継続して参加をしていく方針です。

【2019年度 学会などの参加状況】

大会名・イベント内容	開催日	開催地	開催場所	主催者
第66回大学入試懇談会	5月26日	東京都	学習院大学 創立百周年記念会館	公益社団法人日本数学教育学会
第101回全国算数・数学教育研究(沖縄)大会	8月5日～9日	沖縄県	那覇市立金城小学校他	公益社団法人日本数学教育学会
第7回Yokohama地域学校協働活動フォーラム	9月19日	神奈川県	横浜花咲ビル	NPO法人横浜市民アクト
第35回小学校算数教育研究全国(松本)大会	10月26日	長野県	松本市立開智小学校	新算数教育研究会
第14回小中一貫教育全国サミットin堺	11月7日～8日	大阪府	ホテル・アゴラ リージェンシー大阪堺	小中一貫教育全国連絡協議会

この他、日本青年会議所の賛助会員を継続し地域とのパイプ作りができました。また、日本介護事業連合会の賛助会員として、多くの介護事業を手掛けている企業とも接点を持つことができました。